

中国語の可能表現「能」「可以」「会」

黄麗華

1. はじめに

可能を表す中国語の能願動詞「能」(néng), 「可以」(kěyǐ), 「会」(huì)の意味は、一定の分類がなされた形で記述されることが多い。例えば、呂叔湘主編(1980)(日本語訳は牛島監訳1992による)では次のような細かな分類がなされている。(以下では便宜上、中国語文は日本で通用している漢字で表記する。)

「能」

① 事を行う能力や条件があることを表す。

我們今天能做的事，有許多是過去做不到的。

(我々が今日できることの中には、過去に不可能だったものがたくさんある)

② 上手に行うことを表す。前に‘很’をつけられる。

他很能團結同志。(彼は同志を團結させるのにたけている)

③ ある用途があることを示す。

橘子皮還能做藥。(みかんの皮から薬をつくることもできる)

④ 可能性のあることを表す。

滿天星星，哪能下雨？(滿天の星空だ、雨なんて降るはずないよ)

⑤ 情理から許されることを表す。

我可以告訴你這道題該怎麼做，可是不能告訴你答案。

(この問題をどう解くかは教えてあげてもいいが、答えは教えられないよ)

⑥ 状況から許されることを表す。

這儿能不能抽煙？— 那兒可以抽煙，這儿不能。

(ここで煙草を吸ってもいいですか — あそこではかまいませんが、ここではだめです)

「可以」

① 可能を表す。

這間屋子可以住四個人。(この部屋には4人住める)

② ある用途を持つ。

大白菜可以生喫，小白菜不能生喫。

(白菜は生で食べられるが、小松菜は生では食べられない)

③ 許可を表す。

我可以進來嗎？— 可以。(入ってもいいですか — いいです)

④値打ちがある。

這個問題很可以研究一番。(この問題は研究する価値がある)

「会」

①どうすればよいかわかっている、…する能力がある。[注1]

你会不会唱這個歌？— 会。(この歌歌えますか— 歌えます)

②あることをするのが得意である。ふつう前に‘很・真・最’などをつける。

他很會演戲。(彼は芝居がとても上手だ)

③可能性がある。

現在他不会在家里。(いま彼は家にはいない)

(以上、下線筆者)

以上の分類の中には、文法的な性質(例えば、単独で質問の回答になるか否か、対応する否定表現は何かなど)にもとづいてたてられた項目もある。しかし、上にあげた用法の違いはことらの性質や文脈の違いによるところが大きく、「能」「可以」「会」の基本的な意味はひとつにまとめることができる。

以下、それぞれの語について分析をおこなう。(例文は特にことわらないかぎり筆者の作例である)。

2. 「能」

まず、「能」の分析から始めよう。

(1) 張三能說四川話。(張三は四川語が話せる)

(1)は「四川語を話す能力を有する」ということを表す文であるが、(2)のような文脈で発した場合は不自然になる[注2]。

(2)??張三是四川人，能說四川話。(張三は四川人だから，四川語が話せる)

(2)に対するネイティブスピーカーの反応は、四川人が四川語を話せるのはあたりまえであり、あたりまえのことを表すのに「能」を用いるのはおかしい、という点で一致している。また、この直観をうらづけるように、(2)に「どのような四川語が話せるか」ということを示す語句を補うと自然な文になる。

(3) 張三是四川人，能說一口非常地道的四川話。

(張三は四川人で，非常に標準的な四川語が話せる)

四川人ならば四川語を話せるのはあたりまえだが、四川人であれば「非常に標準的な」というレベルに達した四川語が話せるとは限らない、というわけである。

この例からも示唆されるように、「能」の意味を考える場合には、「達成」、すなわち、

(4) 狀況が…というレベルにまで達する。

ということがひとつの重要なポイントになる。実際、呂叔湘主編(1980:p. 369)で指摘されているように、動作の達成度を問題にするという文脈では「能」が自然である[注3]。

(5) 小李能刻鋼板，一小時能刻一千多字。

(李くんはガリ版を切れる。1時間に1000字あまり切れる)

(呂叔湘主編1980:p. 369)

(6) 新幹線一個小時能行210公里。(新幹線は一時間で210キロ走れる)

(5)(6)は、いずれも「李くん」「新幹線」という主体の能力や性能が一定のレベルに達している(一定の能力・性能が達成されている)ことを述べる文である。

1.にも示したように、呂叔湘主編(1980:p. 367)では、「能」が「上手におこなう」ことを表す場合は前に「很」(たいへん)などの程度副詞がつけられるとしている。

(7) 他很能團結同志。(彼は同志を團結させるのにたけている)

(呂叔湘主編1980:p. 367)

この場合、「技能が一定のレベルにまで達している」ことが「能」で表される。

ただし、「能」の前に「很」があれば必ず「上手におこなう」という意味になるかというところではない。

(8) 張三很能買東西，見什麼買什麼。

(張三は非常によく買物をし、見たものは何でも買ってしまう。)

(8)には「買物にたけている」という意味はない。(8)が表すのは、「買い物の量が多い」あるいは「買い物をする頻度が高い」ということ、すなわち動作や量の頻度が高いレベルにまで達しているということである。(類例として、「能喫」(よく食べる)、「能睡」(よく寝る)、「能叫」(やらと騒がれる)、「既要能学也要能玩」(よく学ばないと遊ばないと)などがある。)この点、「能」は後述する「会」とは異なる。

次のような例も、「能」は「状況が一定のレベルにまで達する」ことを表すという線で説明できる。

(9) 這瓜什麼時候能熟? (この瓜はいつごろ熟しますか)

(10) 這些洗了的東西今天能干嗎? (これらの洗濯物は今日中に乾きますか)

(9)(10)で問題にされているのは、「この瓜はいつごろ『熟する』というレベルにまで達するか」「これらの洗濯物は今日中に『乾く』というレベルにまで達するかどうか」ということである。この場合、話し手が「熟する/乾く」ことの達成を望んでいること、そして「熟する/乾く」ことが順調に達成されるとは限らない(何らかの要因によって達成がさまたげられることもありうる)、ということが「能」によって含意される。

「能」が「可能性」を表すとされる場合も、「達成」という視点にたつと、そのニュアンスをうまく説明することができる。

(11) 天這麼晚了，張三也許不能來了。

(こんなに遅くなって、張三はもう来られないかもしれない)

(12) 這孩子將來一定能像他的父親那樣出色。

(この子は将来きっと父親のように立派な人になるだろう)

(13) 真没想到在這里能見到你。

(まさかここで会えるとは思わなかった。)

これらの例で述べられているのは、「状況が話し手の望むレベルにまで達する」ということである。実際、(15)のような予想外・反語の文脈をのぞき、望ましくないことがらについて「能」が用いられることはない。

(14) a. *不注意身体能感冒的。(体に気をつけないと風邪を引くぞ)

b. *這孩子的父親很壞，這孩子將來一定能象他的父親。

(この子の父親は非常に悪い人だ。この子も将来きっとその悪い父親のようになるだろう)

(15) a. 真没想到我能落到這種地步。

(自分がこんなに落ちぶれるとは思わなかった)

b. 這麼閃健的時候怎麼能感冒呢？

(こんな大事な時に風邪なんか引けるか)

「達成」という概念には「困難の克服」という含みがあるが、「能」が「状況が話し手の望むレベルにまで達する」ということを表すというのも、このことと関連があるように思われる。

重要なのは、(11)から(13)の例において、「能」そのものは「状況が話し手の望むレベルにまで達する」ということを表すだけだということである。「可能性」という意味は、文脈、上の例では、話し手の推量・推測を表す「也許」(かもしれない)、「一定」(きっと)、「真没想到」(まさかとは思わなかった)などの表現があることによって明確な形で生ずると考えられる。

「許可」を表すとされる「能」についても同じことがいえる。

(16) A: 現在，我能見張三嗎？

(いま，張三に会えますか／張三に会わせてもらえますか)

B: 現在張三正在開會，你不能見他。

(いま，張三は會議中だから，会ってはいけません／会えませんよ)

(16)で述べられているのは、基本的には「状況が話し手の望む『会う』というところにまで達する(かどうか)」である。そして、「会えるかどうか」ということは誰かの意向あるいは何らかの規則・約束事によって決まることであるため、「許可」という意味あい加わるのである。

以上の議論をふまえ、「能」の基本的な意味を次のようにまとめる。

「能」：状況が一定のレベルにまで達する。

3. 「可以」

「可以」と「能」は類似の文脈で用いられることが多い。辞書等では、「可以」と「能」をおきかえて説明されることもある。しかし、当然のことながら、「可以」と「能」は決

して同じ意味を表すわけではない。以下、「能」と比較しながら「可以」の意味について考える。

まず、次の例では「可以」「能」の両方が使用可能である。

- (17) a. 這間屋子可以住四個人。(この部屋には四人住める)
(呂叔湘主編1980:p. 302)
b. 這間屋子能住四個人。(この部屋は四人まで住める)

しかし、次のような文脈では「能」は不自然である。

- (18) a. 這間屋子可以住四個人，也可以住兩個人。
(この部屋は四人住んでもかまわないし，二人住んでもかまわない)
b. *這間屋子能住四個人，也能住兩個人。

「可以」を用いた(17a)は、

- (19) 「四人」は「この部屋」に居住可能な人数の範囲内におさまる。

ということを表すだけで、「四人」が居住可能な人数の上限だとは言っていない。(18a)で述べられているのも、「四人」「二人」はともに許容範囲内におさまる，ということにすぎない。

これに対し、「能」が表すのは「達成」であり，(17b)で表されるのも，居住可能な人数の上限が「四人」だということである。(18b)で「能」が不自然なものも，「四人」「二人」という二つの上限があることを述べることになるからである。ちょうど，日本語で、

- (20)??この部屋は四人まで住めるし，二人まででも住める。

が不自然なのと同じである。もちろん，(21)のように「一定の条件のもとでは上限が上がる」という文脈では「能」は自然である。

- (21) 這間屋子能住四個人，濟一濟也能住五個人。

(この部屋は四人まで住めるが，つめれば五人まで住むこともできる)

次の例においても，「可以」は「ことがらが許容範囲内におさまる」ことを表す。

- (22) 張三 可以／能 写小説。(張三は小説が書ける)

「可以」が用いられた場合は、

- (23) 「小説を書く」ことは張三の能力の許容範囲内におさまる。(張三にとって，小説は「書こうと思えば書ける」ものである)

くらいの意味になるが，「能」が用いられた場合は，「筆がたつ」，すなわち、

- (24) 「小説を書く」行為が量的にも質的にも一定のレベルに達している。(書く量も多いし，早く上手に書ける。)

という意味になる。日本語でも、

- (25) 小説を書くくらいは(*たいへん)大丈夫だ。

のような文は「たいへん」のような程度副詞とは共起しにくい，中国語でも，この場合の「可以」は「很」(hǎi)などの程度副詞とは共起しにくい。

(26) a. *張三很可以写小説。

b. 張三很能写小説。(小説を書くとき張三はたいへん筆がたつ)

ただし、次のような場合には、通常「很」あるいは「倒」(註)が付加される(呂叔湘主編1980)。

(27) a. 這個問題很可以研究一番。(この問題は研究する価値がある)

b. 美術展覽倒可以看看。(美術展は見ておいたほうがいい)

(呂叔湘主編1980:p. 303)

この種の「可以」は「値打ちがある」ことを表すといわれるが、そのニュアンスをもう少し具体的にいうならば、「なかなかいい」ということになろう。これもつまるところは、「問題」や「美術展」が「研究する」「参観する」という行為、及び行為の背景にある人々の興味や関心を受け入れるということであり、やはり「許容」という線で考えることができる。

「可以」は主に「許可」を表すと言われる。確かに、「ことがらが許容範囲内におさまる」ということを表す関係上、「可以」は「許可」という文脈で用いられることが多いが、「許可」という意味自体は、許可を与える主体や規則・約束事存在が想定される場合に生ずる意味にすぎない。

(28) [9時になって、勉強していた子供が]

媽媽都到九点了，我可以睡覺嗎？(ママ，もう9時になったよ，寝ていい?)

次の例は、呂叔湘主編(1980:p. 369)で、「能」は「客観的可能性」を表せるが「可以」はできないとしてあげられているものである。

(29) a. 這麼晚他還能來嗎？(こんなに遅くなって彼はまだ来られるだろうか)

b. *這麼晚他還可以來嗎？

(呂叔湘主編1980:p. 369, 自然さの判定も同書による)

「能」を用いた(29a)は、

(30) 「時間が遅い」という悪条件であっても、「彼が来る」ということは達成されるか否か？

という問題(心配)を聞き手と共有しようとして発される文であり、聞き手に答えを求める文ではない。「可以」を用いた(29b)は、ネイティブスピーカーによって自然さに関する判断がゆれる文であり、呂叔湘主編(1980)は不自然とするが、筆者を含め、

(31) こんな遅い時間に彼が来てもいい？

のように聞き手に許可を求めるという解釈ができないわけではない、とするネイティブスピーカーも少なくない。「這麼晚」(こんなに遅い)という悪条件を示す要素と「還」(まだ)がくみあわさると許可を求めるという意味にはとりにくいということだと思われるが、いずれにせよ、

(32) お母さん、こんな遅い時間に彼が来られるかどうかあててごらん。

のように、聞き手に許可を求めているのではないことが明らかな文脈では「可以」は使えず、「能」または次節で述べる「会」が用いられる。

(33) 媽媽，你猜這麼晚了他還 能/会/*可以 來嗎？ (=32)

「可以」が「許可」の意味に解釈されやすいというのも、「ことがらを許容する」主体の存在が強く含意されるからであろう。

以上の議論をふまえ、「可以」の基本的な意味を次のようにまとめる。

「可以」：ことがらが許容範囲内におさまる。

4. 「会」

「会」はしばしば「学習や訓練によって一定の技能が習得されている」ことを表すといわれる。しかし、「会」が表すのはむしろ「ことがらがごく自然に成立する」ということであり、「学習による技能の習得」ということもその中に含まれると考えるべきである。以下、「能」と比較しながら「会」の意味について考える。

まず、当該の動作が主体にとって「特別な努力を要することなく、ごく自然におこなえる」動作である場合は、「会」が用いられ、「能」は用いにくい。

(34) 張三是四川人，会/?能 說四川話。（張三是四川人だから，四川語が話せる）

cf. 張三是四川人，能說一口非常地道的四川話。（=3）

（張三是四川人で，非常に標準的な四川語が話せる）

(35) 老鼠生來 会/?能 打洞。

（ネズミは生まれながらにして穴を掘ることができる）

(34)では、技能が一定のレベルにまで達していることを表す「能」ではなく、「会」を用いなければならない。これも、四川人にとって「四川語を話す」ということはごく自然におこなわれ、特別な努力を必要としない動作だからである。

また、(35)で述べられているのも、ネズミにとって、「穴を掘る」ことは誰に教えられともなく自然に習得され、特別な努力なしにおこなうことができる動作である、ということである。

「会」の意味を考える上で、この「自然に成立する」ということはきわめて重要なポイントである。実際、通常「自然に成立する」とは考えにくい動作（例えば「1時間に1000字あまり打つ」）については、「会」は使いにくい。

(36) 張三一小時 能/?会 打一千多字。（張三是1時間に1000字あまり打てる）

「ことがらが自然に成り立つ」ということは、動作主体の意思や外的条件に依存するというよりは、主語で表されるヒトやモノの性質に依存する形でことがらが成立するということである〔注4〕。

例えば、

(37) 我最近很忙，不能/*不会 打毛衣。

(私は最近は忙しくて、セーターも編めません)

のような例で「会」が不自然なもの、動作主体である「私」の性質とは無関係に「忙しい」という外的な条件のために「セーターを編む」ことが実現できない、ということが述べられているからである。

次のような例でも「会」は使いにくい。

(38) 這塊布 能/*会 做西服。(この生地で背広が作れる)

(39) 這塊豆腐還 能/*会 喫嗎?(この豆腐はまだ食べられますか)

これも、「作る」「食べる」ということが実現されるかどうかは「生地」や「豆腐」の性質だけで決まるわけではなく、動作をおこなう人間の側の技能や意思も問題になるからであろう。

これに対し、

(40) 這塊布一洗 会/*能 縮水的。(この生地は洗うと縮む)

(41) 豆腐不喫 会/*能 放壞的。(豆腐は早く食べないと傷むよ)

のような例では「会」が自然である。「生地が縮む」「豆腐が傷む」といったことがら、
「生地」や「豆腐」自体の性質上、自然に生じうることだからである。

次の例も「会」と「能」の意味の違いが端的に現れる例である。

(42) a. 張三特別会買東西。(張三は買物上手だ)

b. 張三特別能買東西。(張三はよく買い物をする/たくさん買う)

(43) a. 張三特別会走路。(張三は上手に歩く技術を身につけている)

b. 張三特別能走路。(張三はよく歩く/長い距離を歩く)

(42a)(43a)が意味するのは、主体が当該の動作を上手におこなうことができるということであるが、これもつまるところは、当該のことがらが主体の性質に依存する形で自然に(スムーズに)成立するということである。一方、「能」を用いた(42b)(43b)で表されるのは、先に述べたように「動作の頻度や量が一定のレベルにまで達している」ということである。(類例としては、「会喫」(食べ物に慣れている)と「能喫」(よく食べる)、「会說話」(話術がある)と「能說話」(よくしゃべる)などがある。)

「可能性」を表すと言われる「会」も、やはり「ことがらが自然に成立する」という視点にたつと、そのニュアンスを適切にとらえることができる。

(44) 看様子明天 会/能 下雨。(この様子では明日は雨になりそうです)

(45) 只要努力, 是一定会/能 成功的。(努力さえすればきっと成功するよ)

「能」を用いた場合は、「状況が『雨が降る/成功する』というところにまで達する」ということに重点がおかれるが、「会」が用いられた場合は、「『この様子/努力する』という条件のもとでは『雨が降る/成功する』ということがらが自然ななりゆきとして成立する」ということに重点がおかれる。

2. で述べたように、「能」は(予想外・反語の文脈をのぞき)望ましくないことがらに

ついでには使えないが、「会」にはそのような制限がない。

(46) a. 不注意身体 会/*能 感冒的。(体に気をつけないと風邪を引くぞ)

b. 這孩子的父親很壞, 這孩子将来一定 会/*能 象他的父親。

(この子の父親は非常に悪い人だ。この子も将来きっとその悪い父親のようになるだろう)

「能」とは異なり、「会」は「ことがらが自然に成立する」ということを表し、「達成」すなわち「困難の克服」という意味あいを含まない。「会」が望ましいことがらと望ましくないことがらの両方について用いることができるのもそのためであろう。

以上の議論をふまえ、「会」の基本的な意味を次のようにまとめる。

「会」：ことがらがごく自然に成立する。

5. まとめ

本稿では、「能」「可以」「会」の基本的な意味を次のようにまとめた。

「能」：状況が一定のレベルにまで達する。

「可以」：ことがらが許容範囲内におさまる。

「会」：ことがらがごく自然に成立する。

「可能」という言い方でカバーできる意味範囲はかなり広いが、「能」「可以」「会」のそれぞれの意味特徴を一言で表すとすれば、「能」は「達成」, 「可以」は「許容」, 「会」は「自発」ということになる。

本稿では、「能」「可以」「会」の種々の用法をひとつの意味にまとめることに主眼を置いた。この結果をふまえて、「能」「可以」「会」の用法の広がりやことをの性質や文脈との関わりできめ細かに記述することが次の課題である。

／注／

*本稿は、黄麗華(1988:第3章)の内容の一部にもとづいておこなった口頭発表「中国語の能願動詞『能』『可以』『会』について」(東京都立大学国語国文学会, 1988年5月14日)の発表原稿に加筆・修正を加えたものである。

- 1 劉月華他(1983:p.115)では、「わかる」「する能力がある」「うまい」という意味を表す「会」は動詞扱いされている。ただし、「会不会唱這個歌」(この歌が歌える), 「很会演戲」(芝居がとても上手だ)のような、通常は能願動詞(助動詞)とされる「会」までも動詞として扱うのかどうかは、例文があげられていないので、はっきりしたことはわからない。
- 2 中国語の例文の自然さの判定は、1987年に都立大学国文学研究室のネイティブスピーカー(8人以上)にアンケート調査を行なった結果である。「*」は全員が非文と判定

したもの、「??」はかなり不自然と判定したものである。

- 3 相原(1991:p.32)でも、後述する「会」は「一応の基本技能がクリアされている」ことを表し、「習得した技能の深淺」を問題にする時は「会」ではなく「能」が用いられる、ということを描している。
- 4 「ことがらが自然に成立する」とはいつでも、完全に生得的と見られることがらについては「会」も使えない。

*孩子会哭了。(子供が泣けるようになった) (相原1991)

*孩子会睡覺。(子供が睡眠することができる)

この意味では、「一応の基本技能がクリアされている」(相原1991)という説明は、「会」の重要な側面をとらえているといえる。

／文献／

相原 茂(1991)「能・会・可以」『中国語』372(1991年1月号)内山書店

黄 麗華(1988)「日本語・中国語における可能表現—可能文の意味を中心に—」修士論文 東京都立大学大学院人文科学研究科

劉 月華 他(1983)『实用現代漢語語法』外語教学与研究出版社 (相原茂監訳1991,1992 『現代中国語文法総覧(上・下)』くろしお出版)

呂 叔湘 主編(1980)『現代漢語八百詞』商務印書館 (牛島徳治監訳1992『中国語用例辞典』東方書店)

(付記) 中本正智先生をはじめとする意味論ゼミの参加者の方々からは、母語を分析するセンスを磨くことの大切さを教わりました。また、黄麗華(1988)の執筆に際しては、菊田正信先生(当時東京都立大学、現在一橋大学)からも貴重な助言をいただきました。記して感謝申し上げます。

(Huang Lihua・聖心女子大学非常勤講師)